

## 「笹本恒子 100歳展」

2014年4月26日

「日本初の女性報道写真家 笹本恒子 100歳展」を観に行った。1914年（大正4年）に生まれ、1940年（昭15年）に女性写真家になった。一時活動を休止したことはあったが、今日まで、75年間、撮影や執筆をしてきたのであるから、驚くべき活躍である。「女性」という言葉が付きまとうことに、いささか抵抗があるが、女性の社会的進出が認められない時代から、社会の動向を写し取っていることは、敬意と称賛に値する。

展示写真の半分ほどが「肖像」である。道を究め、時代を動かした人々の顔は皆「面構え」が鋭い。自然な状態で撮るように心掛けたそうだが、そのことに女性であることがプラスしたと書いている。そして、人物写真の背景が興味深い。その人の生活の一端が見え、時代背景を推察することができる。

「笹本恒子が見た時代」の写真は戦中、戦後の時代であるから、まさに、激動が写し取られている。写真はワンカットであるが、一瞬の中に伝達する大きな力を持っている。笹本氏の写真は、戦場カメラマンのような過激な残酷さはなく、女性の視点がある。女性連れの進駐軍兵士、尼衆学校、三井三池闘争の妻たちなど、女性を撮った写真が多い。「女性だけを招待したストリップショー」には驚いた。女性への優しい、また励ましのまなざしが伝わってくる。写真展は戦後を追体験することができる展示であった。

「笹本恒子\*むのたけじ 100歳討論」が、東京新聞で二回に分けて掲載された。むの氏は、知っていても報道しない新聞社に愛想をつかし、戦後は秋田で週刊新聞「たいまつ」を出して、ジャーナリズムの覚醒を訴え続けた。その討論で、笹本氏は下記のように語っている。「戦後、表面だけは男女同権になりましたが、もう少し今の女性には努力をしてほしい」。「日本は広島と長崎が原爆被害に遭っているのに、あんなもの（原発）を50何基も造ってしまいました。国民からは是非のアンケートでも取ればよかったのに、また造るのでしょ。若い方、おおいに声をあげて原発廃止に力を注いでください」。女性が軽視され、命が粗末にされたことを、目の前で見えてきた彼女が言える、女性と若者に期待する発言である。

むの氏は「だから私は新聞社を辞めることを決意したが、今から思うとそれは間違いだった」と、疑義があっても関わり続けるべきであったと反省を語っている。

100歳もの年月を経験すれば、人生の甘さ辛さを知り尽くしたであろう。その人々が、したいことを奔放にできることは羨ましい限りである。